

宮澤賢治の関係者名簿

制作者

中村道彦

(2001年)

【あ】

● あかざわ またきち
赤沢 亦吉

明治 45 年 10 月盛岡中学の父兄懇談会に政次郎の代理として出席○政次郎の信仰上の友人○盛岡における賢治の保証人

● あけがらす はや
暁 烏 敏

明治 10 年生○京都共立尋常中学校時代に恩師・清沢満之まんし（明治後期の思想界に大きな影響を与えた仏教改革の推進者）の感化を受ける○真宗大学卒○真宗大谷派の革新運動開始○花巻仏教会夏季講習会講師

● あさぬ ままさき
浅沼 政規

1907 年 8 月 4 日（日）生○大正 11 年稗貫農学校卒業○大正 12 年 4 月稗貫農学校助手（賢治指導下に化学の実験）○昭和 32 年稗貫農学校退職○平成 1 年 2 月 12 日没

● あべ ちょう ちょう
阿部 眺 or 晃

花巻隣村の素封家に生まれる○二高半途退学○政次郎の友人○小学校教員並びに代用教員○阿部岩手県知事の父○花巻仏教会（真宗）の指導者○大正 9（1920）年—賢治と法華経論争

● あべ たかし
阿部 孝

賢治の小学校中学校を通じての友人で、盛岡中学校時代の賢治の同級生でもあり、東京大学で英文学を学ぶ。

● あべ よしたろう
阿部 芳太郎

明治 25 年 12 月 5 日花巻川口町に誕生○画家を志して出郷○小川芋銭に師事○帰京後看板塗装業および紙函製造業を経営○【春と修羅】の化粧箱に題字「心象スケッチ春と修羅」製作○日本画趣味○昭和 21 年 2 月 5 日没

● あらい しょういちろう
荒井 正一郎

大正 14 年 9 月千厩で賢治と面談○黒沢尻高等女学校校長○賢治がギンドロの苗を贈呈

● あんどう
安藤 ノブ（後姓中村）

昭和 4 年 1 月賢治が実家で急性肺炎の発熱のため臥床した折、花巻共立病院から 18 歳の安藤ノブが派遣される○昭和 4 年 1 月半ば看護終了

【い】

● いしかわ ぜんじろう
石川 善二郎

明治 40 年 6 月 12 日生○石川善助の弟○平成 2 年 12 月 3 日没

● いしかわ ぜんすけ
石川 善助

昭和 7 年 6 月事故死

● いとう か つ み
伊藤 克（勝）己

羅須地人協会の近くに居住○賢治の教え子○羅須地人協会会員○菊池信一と協会を労農芸術学校と仮称○協会では石川啄木について質問○賢治の勧めで茶の行商し失敗○次いで大工を勧める

● いとう きよし
伊藤 清

羅須地人協会会員

● いとう さくすけ
伊藤 作助

花巻駅前蕎麦屋経営○昭和 20 年 8 月 10 日花巻駅付近に落下した爆弾で死亡

● いとう せいいち
伊藤 清一

明治 36 年 4 月 3 日生○花城高等小学校卒業○根子村役場書記○大正 10 年入営○大正 14 年 11 月除隊○大正 15 年 1 月岩手国民高等学校入学○卒業式に総代として答辞朗読のため賢治が原稿を加筆添削○農業自営○賢治の講義ノート○昭和 59 年 11 月 24 日没

● 伊藤 チエ

明治 38 or 45 年生まれ○伊藤七雄の妹

● 伊藤 忠一

明治 43 年 11 月 23 日生○大正 14 年花巻農学校一年間通学○農業と土木関係に従事○冬は宮沢安太郎の十字屋楽器店勤務○羅須地人協会の隣地にある農家の長男で協会会員となり協会案内状の配布を手伝う○協会ではマルクス・エンゲルスについて質問○昭和 39 年 6 月 18 日没

● 伊藤 七雄

明治 31 or 38 年 10 月 18 日生○岩手県丹沢郡水沢町の旧家（豪家）の出身○早稲田大学入学○後の日本社会党委員長・浅沼稻次郎と親交○ドイツ留学中胸部疾患罹患○帰国後、療養のため伊豆大島元村（現、東京都大島元町）に土地取得○療養し回復○大島農芸学校建設の助言を求めて妹・チエを伴って賢治を訪問○「土地約 800 坪の敷地に一棟の校舎を建てて生徒を募集したが七人ほどしか集まらず、しかも校長の彼をふくめ教職員七名というありさま。そのあげく同年（昭和 6 年）八月一三日に死去したので、結局学校は翌年一月、消滅の運命になったという」（奥田弘『校本全集』第 14 巻）○昭和 6 年 8 月 13 日没

● 伊藤 与蔵

明治 43 年 10 月 19 日生○伊藤家の耕地は賢治開墾の畑の隣で羅須地人協会設立時の会員○昭和 6 年 1 月弘前歩兵第 31 連帯入隊○中国戦線に従軍○賢治から軍事郵便（昭和 8 年 8 月 30 日）を受けとる○昭和 8 年 12 月除隊○その後も再三応召○戦後釜石市在住○昭和 60 年 4 月 3 日没

● 井上 勝

鉄道頭（後に「鉄道の父」と呼ばれ、日本の鉄道事業の育成に尽くす）○小岩井農場創設 1891

● 今藤 清六

昭和 37 年 68 歳で死去。花巻では「やげん彫り」の名工として、高村光太郎に優れた技術の評価され、県内外の詩碑を手がけた。

● 岩田 磯吉

大正 6 年 4 月盛岡高農時代賢治と同宿

● 岩田 シゲ

明治 34 年 6 月 18 日生○賢治の妹○大正 7 年花巻高等女学校卒業○大正 12 年 3 月 23 日岩田豊蔵と結婚○二男四女をもうける○昭和 62 年 9 月 20 日没

● 岩崎 弥之助

三菱社社長○小岩井農場創設
1891

● 岩波 茂雄

明治 14 年 8 月 27 日長野県生○日本中学・一高中退・東大哲学科卒業○大正 2 年東京神田に古書店開業○大正 3 年夏目漱石『こころ』刊行により出版業開始（今日の岩波書店）○昭和 2 年岩波文庫刊行開始○昭和 21 年 4 月 25 日没

【う】

● 梅津 善次郎

明治 34（1901）年 4 月賢治母の妹ヨシと結婚○花巻町長

● 梅野 健三

明治 42 年 1 月 20 日生まれ○兄・啓吉（朝日新聞社支局長などを務める）と共に『振興芸術』等の文芸誌を発行するなど、賢治との交わりを深めた○賢治の教え子・小原忠とは、小学校以来の親友である。

【え】

【お】

● 及川 四郎

明治 29 年 9 月 8 日生○大正 5 年盛岡高等農林学校農学科第一部入学○在学中同級生河本義行を介して賢治を知る○大正 12 年卒業後同級生近森善一と二人で害虫駆除薬（チカモリン）農薬製造販売○自宅の東北薬剤研究所を光原社と改名○農教林書出版後【注文の多い料理店】出版計画○近森帰郷後編集実務独力担当し刊行○昭和 49 年 12 月 8 日没

● 及川 留吉（後姓、福田）

明治 39 年 7 月 4 日生○稗貫農校時代の教え子で第 2 回卒業生○童話『貝の火』を筆写○卒業後、賢治の仲介で盛岡高等農林助手を務める○酵母製造に携わり、盛岡の福田パンを創業○昭和 59 年 12 月 24 日没

● 大内 喜助

賢治の教え子○花巻農学校養蚕室に賢治の作った音楽団で口笛演奏○大東亜戦争で戦死

● 大内 金助

金助の父（花巻納豆の創始者）に賢治は度々借金

● 太田 代潔

賢治の教え子

● 大谷 良之

大正5年3月賢治と共に関西方面へ修学旅行

● 小野 義真

日本鉄道会社副社長○小岩井農場創設

1891

● 小原 忠

明治42年3月31日生まれ○花巻農学校第4回生○賢治の仲介により盛岡高等農林の助手になり、その後入学して農会技手や教員となる○賢治に寄稿依頼して、雑誌【女性岩手】を発行する。

● 小原 弥一

明治26年9月15日生○八重畑小学校教員時の大正13○昭和59年7月15日没

● 大橋 珍太郎

慶応4（1868）年6月6日生○独学で医師となる○博学で漢籍・仏学・俳句・和歌に通じ郷土史にも造詣が深い○宮澤政次郎と親交○雅号無価○昭和11年9月～昭和15年9月花巻町長○昭和26年2月24日没

● 大谷 忠一郎

明治25年11月29日生○詩人○昭和2年第一次【北方詩人】創刊○【日本詩集】等に出品○大正13年『沙原を歩む』○昭和2年『北方の曲』○昭和38年4月9日没

● 尾形 亀之助

雑誌【月曜】へ原稿依頼

● 奥寺 五郎

小学校の同級生○農学校の同僚○仙台の病院に結核で入院○賢治は毎土日曜日に見舞いに出かけ給料80円の内30円を送る○賢治の過剰な親切さにむしろ疑惑を抱く○大正13

(1924) 年 11 月 27 日没

● 奥山 銀茂

盛岡中学校時代賢治の同期生

● 小田島 国友

賢治の教え子○劇『植物医師』のアメリカ貴公子役○和賀郡立花村の役場に勤務

● 小田島 祥吉

中学時代の同級生。東大医科で学び海軍軍医となる○大正 10 年上京した折りに東大医学部解剖学教室の解剖用死体の運搬の仕事を紹介する。

● 小田島 尚三

明治 16 年 12 月 2 日生○渡米○盛岡で小田島書店（古本屋）経営○明治 38 年石川啄木『あこがれ』を小田島書房（東京）から刊行○昭和 41 年 3 月 26 日没

● 小田中 光三

明治 39 年 10 月 15 日生まれ○稗貫農学校第 2 回生○卒業後、賢治の仲介により盛岡高等農林畜産教室助手を務める○昭和 49 年 11 月 10 日没。

● 小原

賢治の教え子

● 尾山 篤二郎

マッチの軸で【春と修羅】の背文字作成するが賢治の意志を無視して「詩集」とする

【かゝ】

● 神野 幾馬

盛岡高農の物理学教師○大正 7 年 5 月賢治と稗貫郡内の土性調査

● 川原 仁左エ門

賢治の初恋の看護婦高橋ミネを探す

● 川村 悟郎

明治 29 年 5 月 1 日生○明治 36 年に花城尋常高等小学校で賢治と同級○明治 40 年盛岡尋常高等小学校に転校○明治 43 年同校高等科第 1 学年を修了○盛岡中学に入学○大正 5 年同校卒○盛岡高等農林学校農学科で堀籠文之進と同級○盛岡高等農林学校卒○得業（卒

業)論文は「岩泉牛に就いて」○卒業後、北海道岩見沢市庁、山形県庁、滋賀県庁の各農林課を経て、東京の輸入商社に勤務○病気になり退職○音楽の才能に優れ、バイオリンの弾奏が巧みで良く独奏○大正 11 年 3 月賢治作詞の『精神歌』に作曲○秋田で勤務○昭和 19 年 5 月 1 日没

● 川村 (長坂) 俊雄

大正 11 年 4 月友人・吉田君の受験に付き添って来たのを賢治に勧められて受験し県立花巻農学校入学○父の同意を賢治から吉田君の父親 (県会議員で村一番の大胆那) を介して得て、4 週目に通学開始○学費援助のため賢治は童話原稿一枚 5 銭で清書させる○劇『植物医師』の爾薩待正役○渾名は南瓜 (カボチャ) ○卒後花巻郵便局勤務○台湾巡查○湯本村に帰郷

● 河本 義行

明治 30 年 3 月 21 日生○大正 5 年倉吉中学校卒○盛岡高等農林学校農学科第一部入学○中学時代から「層雲」に属し自由律俳句を学ぶ (俳号緑石) ○大正 6 年賢治・小菅健吉・保坂嘉内らと共に同人誌「アザリア」発刊○大正 10 年手刷詩集【詩集】○大正 12 年『幻に咲く花』○大正 14 年『夢の破片』○昭和 6 年 7 月 18 日溺者を助けようとして水死 (37 歳)

● 簡 悟

賢治の教え子○卒後瀬川と共に樺太へゆく予定であったが賢治は反対し盛岡高等農林学校の成瀬金太郎の下で 5 年間助手勤務

【 き 】

● 菊井 清人

江刺郡梁川村生○賢治の教え子○花巻町上町の光徳寺に下宿

● 菊井 信一

明治 42 年 9 月 1 日生○大正 14 年花巻農学校卒○農業自営○大正 15 年 1 月岩手国民高等学校で賢治から教授○羅須地人協会運動に熱心に協力○伊藤克己と協会を労農芸術学校と仮称○肥料設計の石鳥谷出張所の世話○日中戦争で昭和 12 年 12 月 12 日戦死

● 菊池 武雄

明治 27 年 12 月 8 日生○大正 5 年岩手師範学校卒○盛岡城南小学校 8 年間勤務○大正 13 年福岡中学校転勤図画担当○福岡時代に藤原嘉藤治の紹介で【注文の多い料理店】の装丁と挿絵○昭和 49 年 7 月 11 日没

● 菊池 竹次郎

賢治が尋常高等小学校入学時の担当

● 菊池 忠太郎

慶應義塾で福沢諭吉に師事○花巻で新聞書籍を扱う河北堂を経営参画○賢治が尋常小学校入学時の担当

● 儀府 成一 →母木 光

● 木村 圭一

藤原嘉藤治や妹らとレコード鑑賞やコンサート活動を続ける○医師○油絵を描きアイヌ語を研究○昭和 30 年 11 月 (51 歳) 没

● 木村 雄治

盛岡中学校時代賢治の同期生

【 < 】

● 草野 心平

明治 36 年 5 月 12 日福島県磐城郡上小川村 (現いわき市) 生○大正 13 年中国嶺南大学在学中に【春と修羅】を友人より入手○大正 14 年黄瀛^{こうえい}らと共に詩誌【銅鑼】刊行○大正 14 年 7 月帰国後賢治を同人に勧誘○昭和 9 年賢治没後『宮澤賢治追悼』○昭和 10 年雑誌【宮澤賢治研究】○昭和 31 年【宮澤賢治全集】○昭和 45 年エッセイ『わが賢治』○昭和 63 年 11 月 12 日没

● 葛^{くず} 博^{ひろし}

大正 10 年 12 月稗貫郡長として花巻農学校長畠山栄一郎に賢治の就職依頼

● 葛^{くず} 精^{せいいち}一

賢治が盛岡中学時代の同級生○盛岡高等農林時代の 1 年下級

● 工藤 藤一

明治 31 年 2 月 10 日生○大正 5 年兵庫県立明石農学校卒○盛岡高等農林学校農学科第二部入学○盛岡高農卒後東京西ヶ原の国立農事試験場勤務○大正 9 年岩手県立農事試験場技手○昭和 6 年 3 月技師昇格○昭和 6 年 3 月 4 日賢治の訪問を受ける○昭和 18 年場長就

任○昭和 21 年退職○平成 5 年 12 月 26 日没

● 工藤 祐吉

明治 26 年 1 月 20 日生○明治 41 年盛岡中学入学○明治 42 年寄宿舍で賢治と同室（後工藤室長、賢治副室長）○大正 2 年同卒○昭和 44 年 12 月 17 日没

【ナ】

【ニ】

● 小泉 多三郎

大正 7 年 5 月賢治と稗貫郡内の土性調査

● ^{こう}黄 ^{えい}瀛

【銅鑼】同人○陸軍士官学校卒業○昭和 4（1929）年 4 月賢治を訪問

● 後藤 尚五郎

盛岡高農の校医○賢治入学時に体格検査実施し全裸となった賢治を「お前はなんと失敬なやつだ。人前で抜き身をぶらつかせるやつがあるものか」と叱責

● 小林 六太郎

政次郎の知人○大正 10 年 1 月 24 日賢治が東京へ家出した折りに仮宿

【さ】

● 齊藤 盛

稗貫農学校生徒

● 齊藤 宗次郎

1877 年生○賢治よりも 2 廻り上○政次郎の友人○クリスチャンで内村鑑三の直弟子○その信仰のために小学校の職を追われ、家に石を投げられたりもするがその信仰を貫く○大正 10 年 1 月花巻農学校在職中賢治と頻りに往来○求康堂経営○昭和 25 年 10 月『懐かしき親好』掲載【四次元 2 巻 9 号】○1968 年没

● 齊藤 貞一

明治 42 年 1 月 4 日生○大正 11 年稗貫農学校入学○大正 11 年 11 月関節炎のため大正 13 年 8 月まで入退院反復○病氣静養と農業手伝い

● 斎藤 唯信

夏期仏教講習会講師

● 佐伯 正

明治 14 年 2 月 18 日生○明治 43 年東京帝国大学文科大学哲学科卒○大川周明と交友○昭和 2 年 3 月～昭和 4 年 8 月岩手県社会事業主事○方面委員を勤める宮澤政次郎や賢治と交際○昭和 17 年 11 月 11 日没

● 桜井^{ちょうざん}肇 山

夏期仏教講習会講師

● 桜井 馬寛

イギリス海岸の化石発見者

● 佐々木 円五郎

羅須地人協会員

● 佐々木 喜善

明治 19 年 10 月 5 日上閉伊郡淵村（現遠野市）生○岩手医学校中退○東京本郷の哲学館で研鑽○早稲田大学高等師範部聴講生○小説・詩・短歌作成○明治 43 年柳田国男『遠野物語』の話者として材提供○民俗学への転進○明治 42 年以降在郷し民間資料の調査採集○大正 9 年 2 月『奥州のザシキワラシの話』○昭和 3（1928）年 8 月 8 日付の賢治の返書（岩手県上閉伊郡上淵村に在住）○仙台に移住○昭和 5 年 4 月賢治を訪問○昭和 6 年『聴耳草紙』○昭和 7 年 5 月賢治を訪問しエスペラント・民話・宗教（本人は大本教）を話題○土淵村長○『民間伝承』○昭和 8 年 9 月 29 日没

● 佐々木 又治

明治 29 年 3 月 23 日西磐井郡山ノ目村赤萩（現関市）生○一関中学校入学○中 2 時盛岡中学転校○大正 4 年盛岡高等農林学校農学科第二部入学○大正 7 年成瀬金太郎と共に南洋拓殖工業株式会社入社し南洋諸島へ赴任○大正 9 年帰国○昭和 39 年 9 月 29 日没

● 佐藤 元勝

明治 38 年 3 月 11 日生○昭和 3 年花巻小学校教員○昭和 4 年京都妙心寺入堂○昭和 5 年長久寺（臨濟宗）復帰○昭和 10 年盛岡市長松院（臨濟宗）兼務住職○昭和 63 年 8 月 13 日没

● 佐藤 昌一郎

明治 28 年 7 月 1 日生○大正 5 年盛岡中学校○自家垂炭山を経営○大正 9 年稲瀬小学校・警視庁巡查・江刺郡愛宕小学校○大正 13 年～昭和 16 年稲瀬小学校教員○昭和 10 年 21 日没

● 佐藤 昌介

花巻修身○北海道大学総長○大正 13 年 5 月 19 日からの北海道修学旅行の賢治たちを歓迎

● 佐藤 専一

賢治の教え子○劇『植物医師』のギャング役

● 佐藤 隆房

明治 23 年 10 月 15 日生○大正 2 年千葉医学専門学校医学科卒○大正 6 年花巻開業○大正 6 年春宮澤政次郎と相識○大正 11 年花巻共立病院建設企画（政次郎も発起人）○大正 12(1923)年 12 月同病院創立（同年春移転した旧稗貫農学校跡地）○賢治に同病院造園・花壇設計依頼○昭和 3 年賢治の主治医○昭和 56 年 5 月 21 日没
>1903.04

● 佐藤 ^{ながまつ}長松

明治 27 年 12 月 12 日生○花巻共立病院の内科医として東北大学病院より来院○昭和 39 年没
1933.09.21

● 佐藤 義長

盛岡高農第二代校長

● 沢里 武治（旧姓高橋）

明治 43 年 12 月 20 日生○大正 14 年花巻農学校入学○旧花巻の新道にある鎌田旅館に在学中下宿○大正 15 年 12 月賢治上京のため花巻駅まで見送る○昭和 3 年同校卒○岩手師範学校入学○昭和 4 年同校卒○上閉伊郡上郷村（現遠野市）上郷小学校教員○賢治より『オルガン奏法の研究』という本を送られる○昭和 5 年 5 月 30 日沢里栄子と養子縁組・改姓○昭和 6 年 8 月賢治が『風之又三郎』の詩に作曲を依頼○昭和 7 年岩手師範学校専攻科入学（音楽専攻）○昭和 8 年紫波郡志和町片寄小学校教員○上閉伊郡・遠野市の小中学校教員○昭和 45 年上郷中学校長○平成 2 年 8 月 14 日没

● 沢里 連八

明治 11 年 7 月 28 日和賀郡中内村（現東和村）生○明治 30 年盛岡農学校卒○明治 36 年

～大正 3 年岩手県巡査○大正 3 年自営商業○昭和 35 年 5 月 26 日没

● 沢田 忠夫（雄）

賢治の教え子○劇『植物医師』の農夫役

【し】

● 島地 大等

盛岡仏教夏期講習会で法話○『漢和対照妙法蓮華経』編集○願教寺住職○明治 44 年 2 月没

● 釈 宗演

夏期仏教講習会講師

● ^{しらとり}白鳥 ミサオ

明治 44 年 4 月 16 日生まれ○昭和 4 年 1 月中旬安藤ノブの後に賢治の看病を行う

● ^{しらふじ}白藤 慈秀

農学校で賢治の同僚○昭和 2 年？夏羅須地人協会の賢治を訪問

【す】

● 菅原 源太郎

大正 3 年～昭和始め菊づくり○賢治と同じ豊沢町在住の鍛冶屋○羅須地人協会設立後自宅前をリヤカーに野菜や花を積んで通るため路上で挨拶

● 杉山 芳松

明治 40 年 3 月 25 日生○大正 13 年花巻農学校卒○賢治の斡旋で王子製紙株式会社大泊（樺太）支社山林部就職○昭和 24 年 1 月 31 日没

● 鈴木 軍之助

明治 28 年 2 月 26 日生（鈴木東蔵の親戚）○大正 14 年東北碎石工場事務員○昭和 11 年 8 月 20 日没

● 鈴木 操六
賢治の教え子

● 鈴木 東蔵

明治 24 年 2 月 9 日生○岩手県東磐井郡長坂村東本町（東山町）出身○家業は農業○小学校卒業後長坂村役場の給仕○後に書記として 17 年勤務○上京して小さな新聞社に勤務○大正 6 年『農村救済の理論及実際』【中央出版社】○大正 9 年『理想郷の創造』【中央出版社】○時期不明—易に凝り姓名判断で「東蔵」を「藤三」に改名したりする○大正 12 年 4, 5 人の手作業で碎石事業を開始○大正 14 年大船渡線松川駅営業開始○昭和 4 年春渡嘉肥料店へ注文取りで来花時に賢治を訪問○昭和 4 年 12 月賢治と交信○昭和 6 年 2 月賢治と正式に契約○昭和 6 年 9 月賢治臥床と共に経営不況○戦後工場は譲渡され、東亜産業東北タンカル工場となる○昭和 36 年 2 月 25 日没

● 鈴木 ^{とうみん}東民

新聞記者として名をなし、後に釜石市長になる。賢治が東京出奔中にアルバイトをしていた文信社で知り合う。東民の母親は花巻の賢治の家のすぐ近くに住んでいた。

● 錫木 ^{みどり}碧（本名 鈴木 栄吉）

明治 32 年 7 月 3 日生○詩人・童謡作家○大正 7 年【赤い鳥】【おとぎの世界】に投稿○昭和 48 年 7 月 23 日没

● 鈴木 実
鈴木東蔵の長男

【せ】

● 瀬川 哲男
大正 13 年 4 月稗貫農学校入学○賢治の教え子

● 関 うた子
関善七の長女○花巻の「伊勢林」へ嫁入り

● 関 善次郎
関善七の次男○和歌俳諧詩碁（五段程度）将棋などこなす非才人で話術の達人○一向風采をかまわない人で下駄と草履をあてれこに履き絹物の立派な着物をはおりながら雁首のない煙管で平気で煙草するような人○しょうがん（腸チフス）を病みその熱で気がふれる

● 関 善七

富裕な風流人○13人の子供○直治（長男）うた子（長女）キン（次女＝賢治の祖母）善次郎（次男）ヤソ（三女）

● 関 徳弥（登久也）

明治32年3月28日岩手県稗貫郡花巻町で出生（関徳太郎の次男で政次郎の従兄弟）○本名岩田徳弥○明治44年花巻高小卒○大正9年10月国柱会入会し会の新聞【天業民報】を掲示・配布○昭和8年歌集『寒峡』○昭和18年記録『宮澤賢治素描』正○昭和21年賢治研究史【農民芸術】主宰発行○昭和23年記録『宮澤賢治素描』続○昭和23年『宮澤賢治研究』主宰発行○昭和32年『宮澤賢治物語』○昭和45年『賢治随聞』○昭和32年2月15日没（享年59歳）

● 関 豊太郎

慶応4（1868）年6月23日東京市牛込区（現新宿区）生○明治25年帝大農科大学農学科卒○修猷館中学校・広島師範学校・鳥取・宮城・山形の農学校・広島高等師範学校○明治38年8月盛岡高農林学校教授（土壤学）○「^{けんかい}狷介で奇行に富んだ豪傑」で「ライオン先生」とあだ名される○独仏に留学○昭和30年3月20日没

● 関 直治

関善七の長男＝賢治の父系祖母キンの兄○直治（長男）は材木師で沈着な人であったが江戸へ出ては吉原で豪遊

● 関 ヤソ

関善七の娘○花巻の堀田家へ嫁入り○話し上手で賢治7歳時の赤痢で隔離病棟に入院した時看病し昔話を聞かせる

● 関口 三郎

1905年生○群馬県出身○1929年盛岡高等農林卒業○1931年4月宮城県農務課技手をしていた関口を賢治が訪問○1948年死亡

【そ】

【た】

● 平 来作

湯本村字小瀬川部落に生家○賢治の教え子○大正 13 年 5 月 19 日賢治に引率されて北海道へ修学旅行○大正 13 年 8 月劇『飢餓陣営』でバナナン大将を演ずる

● 高瀬 露

明治 34 年 12 月 29 日生○大正 7 年花巻高等女学校卒○大正 12 年 9 月～昭和 7 年 3 月稗貫郡湯口村宝閑小学校教諭○昭和 45 年 2 月 23 日没

● ^{たかちお} ^{ちよう}
高知尾 智耀

明治 15or16(1883)年 9 月 22 日生○東京専門学校（現早稲田大学）哲学科卒○福島県磐城中学校教員○田中智学の講習会参加○国柱会入会○大正 3 年国柱会本科大学準備学会教授○国柱会理事・講師○大正 10 年 1 月国柱会で賢治と面接○昭和 51(1976)年 8 月 5 日没

● ^{たかの}
高野 一司

1882 年岩手国民高等学校の主事（～1948）○昭和 6（1931）年 5 月 5 日宮城県桃生郡広淵村（現河南町）広淵沼干拓開墾事務所長の時に賢治が訪問

● 高橋 勘太郎

二戸郡浄法寺町生○生涯小さな小間物屋の主人として終わった○仏教について造詣が深かった

● 高橋 久之丞

明治 35 年 9 月 5 日生○大正 15 年 11 月湯本農業会の農事講習会受講（講師として賢治）○毎年賢治に肥料設計依頼○平成元年 12 月 16 日没
1933.02.04

● ^{たかはし} ^{けいご}
高橋 慶吾

明治 39 年 12 月 28 日生○羅須地人協会参加（ヴァイオリン担当）○労働農民党党员○キリスト教を信仰しラスキンの研究に没頭していたため協会でもラスキンの関する質問が多かったが賢治はラスキンに興味を示さなかった○昭和 3（1928）年 12 月賢治に「社会事業」への協力依頼し、断られる○昭和 53 年 4 月 23 日没

● 高橋 清吾

明治 32 年 6 月 29 日生○水沢農学校中退○水田の直播機械考案○昭和 2 年鈴木東蔵の石灰石粉の使用で収穫増加したことで普及販売開始○賢治の販売活動と競合し抗議○東北

碎石工場社員○同工場長

● 高橋 光一
羅須地人協会会員

● 高橋 宣？
明治 20 年 9 月 29 日生○法華経に関し賢治と交流○昭和 25 年 3 月 16 日没

● 高橋 忠治
明治 39 年 7 月 5 日生○大正 12 年稗貫農学校第二回卒○劇『植物医師』のアメリカの貴婦人役○大正 12 年 7 月同校助手○大正 12 年 12 月花巻共立病院レントゲン科技手○昭和 2 年花巻町梅木写真館で写真技術習得○昭和 4 年 12 月～昭和 7 年 3 月花巻温泉照井写真館勤務

● 高橋 忠弥
明治 45 年 4 月 25 日生○岩手師範学校卒○画家・元独立展会員
1933.06.23

● 高橋 秀松
明治 29 年 5 月 7 日生○大正 4 年宮城県立農学校卒○盛岡高等農林農学科第一部入学○同校一年時期宿舎で賢治と同室○昭和 50 年 12 月 17 日没

● 高橋 ミネ
明治 26 年 7 月生○岩手県紫波郡日詰町出身○大正 3 年 4 月盛岡市岩手病院入院中の賢治の看護？○賢治の初恋の相手？しかし賢治は同じ年の 18 歳としているが当時 21 歳○大正 3 年 5 月末頃に賢治が岩手病院を退院して間もなく新設の札幌鉄道病院に長期出張する○大正 4 年、賢治は盛岡高等農林学校入学後に岩手病院を尋ねてその看護婦にあったとされるが、高橋ミネは札幌に出張中で不在と思われる。

● 高村 光太郎
大正 15 年 12 月 18 日東京本郷区駒込千駄木林町 155 番地を賢治が訪問

● 竹中 久七
明治 40 年 8 月 4 日生○慶応義塾大学経済学部卒○大正 15 年詩集『端艇詩集』○昭和 3 年『ソコール』○昭和 4 年革新的詩人結社リアン社組織○雑誌【リアン】発行○昭和 8 年『余技』○昭和 37 年 1 月 17 日没

● 多田
夏期仏教講習会講師

● タッピング, ヘンリー

バプテスト派の米国人宣教師○明治 41 年（50 歳）～大正 9 年盛岡浸礼教会に在任○盛岡中学の英語教師兼務

● 田中 智学

1861 年生○国柱会創設「国柱会とは専ら国聖日蓮大士の解決唱導に基づきて、日本建国の元意たる道義的世界統一の浩猷を發揮して、一大正義の下に四海の帰一を早め用いて世界の最終光明、人類の究竟救済を実現するに務るを持って主義となし、これを遂行するも持って事業となす」（国柱会創始の宣言）要するに日蓮の「一天四海皆歸妙法」と神武天皇の「世界一家六合一都」を結合した宗教団体を創設し、後に 15 年戦争を支え、推進したイデオロギー「八紘一宇」「大東亜共栄圏」思想に通じるものを持った団体であった。○医療方面では仏教信徒衛生会、レプラ患者のための大日本救世館、低費医療機関獅子王医院など、災害の救護活動では明治 21 年の磐梯山噴火の他三陸津波、関東大震災などでも活躍する○文芸運動も展開し、詩や戯曲を書いたりした。○1939 年没

● 谷藤 源吉

花城尋常高等小学校六年生の担任

● 玉置 遇

盛岡高農のドイツ語と英語の教師

【ち】

● 近角 常観

夏期仏教講習会講師

● 近松 善一

高知出身○大正 12 年盛岡高農同期の及川四郎と共同で事業を志し農作物の虫害駆除剤の製造販売開始○宣伝普及のため『病虫害駆除予防便覧』という小冊子出版○『蠅と蚊と蚤』という本を出版し、この本に挿入されていた広告文に「少年文学宮澤賢治著」「童話山男の四月発行予定四月中」とある○大正 13 年 12 月【注文の多い料理店】発行○高知で選挙違反により拘留されたため及川四郎は【注文の多い料理店】の出版費用の工面に苦勞する

● 近森 善一

盛岡高等農林学校の後輩○自著の宣伝のため農学校を訪れ、賢治から童話原稿の話聞き、出版の話となる

● 千葉 恭

明治 39 年 12 月 20 日～平成元年 9 月 29 日。水沢農学校卒。稗貫郡農産物検査所に勤務したとき、農学校教師の賢治と会い、以後指導を受け、半年間、羅須地人協会の建物で同居した。米穀検査員

【つ】

【て】

● 寺田 弘

大正 3 年 4 月 29 日生○昭和 5 年【中堅詩人】編集発行○昭和 7 年同誌を【響銅】と改題○昭和 8 年同誌を【北方詩人】と改題○昭和 6 年詩集『骨』○昭和 8 年『音のない墓地』○昭和 52 年『故園の書』○平成 5 年『手首の秋』

● 照井 荘助

賢治の【春と修羅】20 冊ばかりを師範生に売却するように関に依頼される○大迫高等学校校長

● 照井 真臣乳

花城尋常高等小学校五年生の担任

【と】

● 鳥羽 源蔵

1925 年夏早坂一郎に賢治を紹介しバタグルミの化石採集に案内させる

● とみて 富手 はじめ 一

明治 39 年 8 月 10 日生○大正 11 年稗貫農学校第一回卒業生○自家の農業従事○大正 13 年～昭和 13 年花巻温泉株式会社勤務○同社園芸部主任（賢治の指導による）○平成 2 年 6 月 5 日没

● 富谷 三郎

大阪の生地商で【春と修羅】の表紙用布地を提供

【な】

● 長坂 俊雄

大正 11 年稗貫農学校入学

● 中館 武左衛門

明治 24 年 1 月 25 日○明治 38 年盛岡中学入学, 賢治の先輩○明治 43 年同校卒○自称「行者」と称す○昭和 7 年 6 月 22 日○昭和 41 年 5 月 6 日没

● 中西 悟道

明治 28 年 11 月 16 日金沢市生○天台宗学林、曹洞宗学林に学ぶ○天台宗権僧正○大正 5 年歌集『唱名』○大正 11 『東京市』○昭和 9 年内田清之助・柳田園男らと「日本野鳥の会」創設○機関誌【野鳥】発刊○昭和 22 年日本野鳥の会会長○昭和 59 年 12 年 11 日没

● 中野 新佐久

大正 14 年 11 月 13 日花巻農学校校長就任（畠山英一の後任）

● 名須川 郁

水沢農学校教頭○昭和6年3月 31 日学校で賢治と面会

● 成瀬 金太郎

明治 29 年9月1日生○高松中学校○大正4年盛岡高等農林学校農学科第二部入学○報恩寺座禅会参加○大正7年3月同校卒・南洋拓殖工業株式会社入社○ポナペ島赴任○大正9年3月帰国○大正 10 年盛岡高農教官○平成6年3月 11 日没

● 南部 日実

花巻農学校前の日蓮宗教会所所主

● 南部 利直

盛岡（繁栄する岡の意）と改名(江戸時代初期)

【に】

● 西洞 タミノ

トシが入学中の東京女子大学の寮監○1918（大正 7）年 12 月トシの入院を宮澤家に連絡

【ぬ】

【ね】

● 根子 義(吉)盛

明治42年11月18日生まれ○大正13年農学校入学○大正15年花巻農学校卒○羅須地人協会の賢治を訪問し賢治発案の食物(高圧釜で炊いた米飯を四角の枠に入れて適当な大きさにカステラのように切ったもの)を食す○賢治から三代豊国の春画を見せられる○郷里で同窓会副会長や観光協会長を務める○平成7年8月16日没

【の】

【は】

● 箱崎 喜左衛門

賢治の父系曾祖父の妻(リス子)の弟○新渡戸伝と共に青森県三本木を開墾

● 橋本 栄一郎(英一郎)

大正14年11月13日稗貫農学校長転任

● 畠山 八之助

東北砕石工場の工員で石灰俵作りの名人○賢治が工場訪問時にその作業を手伝う

● ^{ははき}母木 ^{ひかる}光 (本名 藤本 光孝)

明治41 or 42年1月3日岩手郡御所村(現雫石村)生○昭和7年4月【岩手詩集】編集出版○昭和2 or 3年処女詩集『人生三部曲』出版○昭和9年4月筆名儀府成一○昭和14年童話集【河馬の名刺】○昭和46年『人間宮澤賢治』○昭和47年『宮澤賢治—その愛と性—』

1933.07.16/1933.08.19

● 早坂 一郎

東北大学地学教師○1925年夏賢治と共にイギリス海岸でバタグルミの化石採集

● 晴山 亮一

稗貫農学校時代の教え子

【ひ】

● 飛田 三郎

羅須地人協会会員

● 日向 秀雄

水沢農学校校長○石灰奨励主義者○昭和6年3月31日学校で賢治と面会

● ^{ひらが}平賀 ヤギ→宮澤ヤギ

● 平野 八十八

花巻川口尋常高等小学校二年生担任

● 廣川 松五郎

東京美術学校染色科教授○【春と修羅】の表紙図案作成

【ふ】

● 福井 ^{きくぞう}規矩三

明治3年8月17日生○大正11年盛岡測候所長○昭和2年7月19日付けの賢治の礼状○
昭和3年「気象観測所常用除算表」編纂○昭和25年9月26日没

● 藤井 将監

京江戸初期、京都から花巻に下り、宮澤家の始祖となる○元禄9（1696）年没

● プジョー, アルマン

カトリックのフランス人宣教師○明治35年（33歳）～大正11年盛岡天主公会に在任
○治発な芸術家肌の人で広い交際があった

● 藤島 準八

明治 42 年 2 月 20 日生○大正 14 年花巻農学校卒○昭和 7 年 4 月和賀郡中内村（現東和町）
中内小学校代用教員○昭和 7 年 7 月 4 日没

● 藤本 光孝 →母木 光

● 藤原 嘉藤治

明治 29 年 2 月 10 日生○大正 5 年岩手師範学校卒○小学校訓導○大正 10 年 9 月花巻高等
女学校音楽担当○花巻カルテットを組織して地域における音楽活動に熱心であった○「草
郎」の筆名で詩作し【文章世界】【岩手日報】【岩手毎日】に作品を発表○大正 10 年 12
月賢治が女学校訪問○昭和 2 年賢治の媒酌で結婚○NHK 仙台放送局の番組に花巻高等女
学校の生徒 3 人と出演しピアノ伴奏をする○文圃堂版・十字屋版『宮澤賢治全集』編集○
昭和 52 年 3 月 22 日没

● 藤原 健次郎

明治 27 年 9 月 2 日生○明治 41 年盛岡中学校入学○盛岡中学野球部の 4 番打者○二年生
時賢治と寄宿舎で同室○賢治が中学 2 年の時に南昌山に登って水晶を取ったと言われる
○明治 43 年 9 月 29 日チフスで没

● 藤原 隆人

明治 27 年 9 月 22 日生○盛岡中学校で賢治の二年先輩○昭和 28 年 3 月 13 日没

【へ】

【ほ】

● 保坂 嘉内

明治 29(1896)年 10 月 18 日山梨県北巨摩郡駒井村（現^{にらさき}韮崎市）生○甲府中卒○大正 5
(1916)年盛岡高農農学科第一部入学○賢治が室長の寄宿舎入室○大正 6 年賢治・小菅健吉
・河本義行らと同人誌【アザリア】創刊○大正 7 年 3 月同校退学処分○大正 8 年農耕生活
に入る○ノートに「新しき村を作らんとして遁げゆくものはまだまだ信仰弱きもの、信仰
厚きものは夢なるままの村の中にあって心の新しき村を作る、武者小路さんはまだまだお
坊ちゃん、しかし、尊いお坊ちゃんだ。」と書き付ける○大正 10 年信仰上の問題から賢治
と決別○大正 14 年 5 月山梨日日新聞社を辞めて農業を営む○昭和 12 年死の直前に「思え
ば俺の一生は、農学を学ばんとして成らず、農村伝習所を興さんとして成らず、農村工場

を建てんとして成らず。失敗の連続であった。」と語る○昭和 12(1937)年 2月 8日没

● 保坂 康夫
保坂嘉内の息子

● 細山田 八郎太
文久 3年(1863)年 10月 26日生(細山田良行の父)○大正 9年 8月 1日没

● 堀内 正己
明治 23年 4月 14日生○明治 40年 岩手県染織講習所染色科卒○中等学校教員検定(教科・日本史・東洋史科)合格○明治 44年 二戸郡月館小学校他県内小学校教員○大正 6年 東北高女○大正 10年 栃木県立大田原中学校○大正 13年 岩手県立盛岡高女(内二年間女子師範学校兼務)○昭和 15年 岩手高女教諭

● 堀籠 文之進
明治 32年 6月 23日生○大正 7年 宮城県立仙台第二中学校卒○盛岡高農農学科入学○大正 10年 同校卒○稗貫農学校教諭○大正 10年 4月～昭和 9年 5月 花巻農学校舎監○昭和 60年 8月 24日没

● 本正 ウラ
豊沢町で香梅舎という女子だけの寺子屋を開き、英語・洋裁・習字を教える○本正ウラの取り持ちで宮澤イチ(18歳)と宮澤政次郎まさじろうが結婚○本正家(本屋)と宮澤家は家族ぐるみの付き合いをする。
>1891/1895.12.21

● 本正 信蔵
明治 28(1895)年 12月生
>1895.12/1899/1901/1902.04

【ま】

● 前田 幸太郎

結婚時の経験を聴いた賢治は五行四節二十行の詩(猥褻)わいせつを作成

● 松田 甚次郎
郷里の山形県鳥越村で「最上共働村塾」を開き農村の更正を実践○昭和 2年 8月 賢治より

農民劇の指導

● 松田 ^{けいすけ} 奎介

賢治の教え子○劇『植物医師』の農夫役

● 松田 浩一

賢治の教え子○農学校一年時賢治の依頼で『風野又三郎』『檜ノ木大学士の野宿』を筆写し筆耕料受領

● 松田 幸夫

大正元年7月31日生○岩手医学専門学校○昭和7年雑誌【天才人】編集発行○昭和8年5月14日寄稿者の関徳弥と共に賢治訪問

【み】

● 三浦 第二郎

盛岡高農の林科助教授○賢治入学時に口頭試問担当し「日本は人口が増える一方で、米が益々足りなくなる。よいお米を沢山とれるようにして国民生活を安定させたい。それにはどうすればよいのかそれを勉強したいからです。」という答えに感心し教授会で第一番に推薦

● 光田 芳郎

関徳弥の友人○賢治から仏教の話聞く

● 宮澤 磯吉

宮沢善治の三男○釜石市で薬店経営

● 宮澤 イチ

明治10年(1877)年1月15日生まれ○宮沢善治の長女○香梅舎を受講○明治26(1895)年政次郎と結婚○宮沢善治の長女○賢治出産○昭和38(1963)年6月30日没
1891/1894/1895 春/1895.12.21

● 宮澤 右八(初代)

延享2(1745)年生○屋号「宮右」という呉服商を商う○文政12(1829)年没

● 宮澤 右八(二代目)

文化10(1813)年生○賢治の父系曾祖父一人息子○子に喜太郎(長男)円治(次男)喜助

(三男) 徳四郎 (四男) ○栄耀栄華を極め大名のような生活○土子^{つちこ}金持ちといわれる○明治 27 (1894) 年没

● 宮澤 円治

賢治の父系叔父 (宮澤右八の次男) ○平賀家へ養子○我の強い人

● 宮澤 主計 (旧姓刈屋)

明治 36 年 6 月 23 日生○大正 15 年岩手県庁勤務○昭和 2 年 3 月羽田正の紹介で賢治と初対面○昭和 2 年 11 月賢治の要望で妹クニと婚約○昭和 3 年 4 月 11 日結婚 (入婿)○昭和 3 年 9 月 5 日入籍○昭和 55 年 8 月 10 日没

● 宮澤 嘉助

天保 11 (1840) 年生○二代目・宮澤右八の三男○賢治の父系祖父○「石に金具を着せたような人」と言われたほどの堅い人物で親孝行○明治維新前後の混乱期に「宮右」は衰運をたどっていたため、わずかな資金をもらって分家 (=「かまどわけ」) して「宮右かまど」と呼ばれたが、当初は細々とした商いであった○質・古着商開店 (里川口村川口町 303 番地)○熱病と病み家計緊迫○大正 6 (1917) 年 9 月 16 日没 (享年 72 歳)

● 宮澤 喜太郎

賢治の父系叔父 (宮澤右八の長男) ○人の好い単純な人

● 宮澤 キン

^{しわ ひづめ}紫波郡日詰町の関善七の次女○賢治の父系祖母 (宮澤喜助の妻) ○大正 2 年 3 月 12 日没

● 宮澤 クニ

明治 40 (1907) 年 3 月 4 日生○賢治の妹三女○長女ふじ子○昭和 54 (1979) 年 6 月 8 日没

● 宮澤 幸作

賢治母系の祖○棟梁で鳥谷ヶ崎神社円城寺門製作○天保 2 (1831) 年没

● 宮澤 恒治

宮沢善治の次男○大同金属 (岩手銅業株式会社) 専務

● 宮澤 サキ (サメ)

大津屋呉服店の前主人橋本善助の妹○しょうがん (腸チフス) を病み頭髪が薄くなりかず

ら使用○宮澤善治の妻○善治没後間もなく死去

● 宮澤 シゲ

明治 34 (1901) 年生○賢治の妹○昭和 62 (1987) 年没

● 宮澤 治三郎

宮澤政次郎の弟○賢治の名付け親

1896.8.27

● 宮澤 史郎

母系宮澤家の当主

● 宮澤 清六

明治 37 (1904) 年 4 月 1 日生○賢治の弟○大正 11 年盛岡中学校卒○大正 11 年 12 月東京研数学館で数学・科学（主に電気）を学ぶ○大正 13 年 12 月弘前歩兵第 31 連隊入隊（志願兵）○大正 15 年 3 月見習士官で除隊○大正 15 年 5 月建築・金物・電導材料・自動車部品の宮澤商会開業○昭和 5 年 10 月教育招集で 3 週間入隊○戦後岩手県民生委員・児童委員○昭和 62 年『兄のトランク』

● 宮澤 セツ

宮沢善治の次女○花巻町長の梅津喜次郎の妻

● 宮沢 善治

安政元 (1854) 年生○賢治母イチの父○祖父の代から続いた雑貨商「宮澤屋」を「宮善」と呼ばれる「宮澤商店」として大発展させる○イチ（長女）直治（長男）恒治（次男）磯吉（三男）セツ（次女）○篤実温厚の人で己の分を知り意志も強く聡明な人○和歌作成○一代にして巨富を成す○花巻銀行・花巻温泉・岩手軽便鉄道などの設立に尽力○町会議員を 24or40 余年務めて表彰されている○昭和 14 (1939) 年病没 (86 歳)

1896.08.27

● 宮澤 徳四郎

賢治の父系大叔父（宮澤右八の四男）○いくらか暗い性格○分家として質屋経営○はる（末子；日本女子大でトシの先輩）

● 宮澤 トシ

明治 31 (1898) 年 11 月 5 日生（賢治の妹）○小学校時代から成績抜群で模範生○花巻高女最優秀で卒業○大正 4 年日本女子大学入学○責善寮入寮○大正 7 年 12 月東大病院小石川分院（永楽病院）入院○賢治看病○大正 8 年 3 月上旬帰花○大正 9 年 9 月花巻高女教諭心得兼舎監心得○大正 10 年 8 月櫻の家で病臥○大正 10 年 9 月病氣退職○大正 11 年 11

月 19 日本宅に戻る○大正 11（1922）年 11 月 27 日没
>1898.11.05

● 宮澤 友次郎

明治 34 年 1 月 21 日生（父方祖父喜助の兄喜太郎の娘キヌの次男）○昭和 16 年 7 月 17 日没

● 宮澤 直治

賢治の母系叔父○花巻町長歴任

● 宮澤 はる

父宮澤徳四郎の末子○はきはきして自分の考えはどんどん述べ世話好きの人○日本女子大でトシの先輩

● 宮澤 ^{まさじろう}政次郎

明治 7（1874）年 2 月 23 日生○宮澤喜助の長男○15 歳頃家業の質・古着商手伝い○17 歳京都・四国へ商品仕入に出かける○18 歳頃叔父喜左右衛門と開墾地三本木に行く○明治 27 年宮澤イチと婚約○大正 4 年（19 歳）家督相続○賢治出生○明治 35 年 9 月赤痢の賢治看病中に感染し胃腸症状持続○大正 15 年宮澤商会開業（金物・電導器具）○花巻仏教会・四恩会創設○講習会開催○経巻の施本○町会議員○方面委員○学務委員○調停委員○民生委員○司法委員○昭和 32（1957）年 3 月 1 日没
1894/1895 春/1895.12.21

● 宮澤 ヤギ（平賀ヤギ）

政次郎の妹○賢治を愛着○賢治のために「正信偈」「白骨の御文章」を唱える○明治 35（1902）年 4 月再婚○大正元年（1912 年）12 月 1 日没（享年 43 歳）
>1899/1902.04

● 宮澤 ヤソ

明治 35（1902）年 9 月賢治が赤痢で入院したときに話し上手で毎日のように昔話を聞かせながら付き添う
>1902.09

● 宮澤 安太郎

明治 35 年 10 月 17 日生○政次郎の弟治三郎とタノの長男○大正 10 年盛岡中卒○大正 10 年東京の稲垣方に滞在中の賢治と同居○昭和 19 年 3 月 11 日没

● 宮澤 弥太郎

宮澤善治の父で賢治の母系曾祖父○地味な勤勉家○松島の歌を詠んで二等賞受賞○花巻

市の安浄寺建立時に働き病気となり風邪薬2回分を一度に服用して落命。

● 宮澤 弥兵衛

宮澤弥太郎の父＝賢治の母系曾曾祖父○宮澤家を興した人

● 宮澤 ヨシ

賢治母イチの妹○明治34(1901)年4月梅津善次郎(後に花巻町長)と結婚

● 宮澤 リス子

宮澤右八の妻○同町内の「つたや」(花巻市上町の天津屋呉服店のあったところに屋敷)から嫁入り○兄は「けんだん」さんといわれ町長と警察署長を兼ねたような権力を持っていた○弟箱崎喜左エ門

● 宮澤 ヨシ

母の妹○明治34(1901)年4月梅津善次郎と結婚

>1901.04

● 宮澤 友一

明治28年11月22日生○青森県立農学校卒○大正4年盛岡高農農学科第一部入学○大正7年同校卒○同校実験助手○大正11年2月8日没

【む】

● 武藤 益蔵

明治14年11月20日生○大正元年9月盛岡高農(岩手大学農学部)林学科教官○大正7年4月稗貫郡土性調査に協力○昭和33年3月岩手大学農学部退官○昭和52年10月31日没

● 村上 専精

夏期仏教講習会講師

● 村松 舜祐

盛岡高農の化学教授

【め】

● 目時 政忠

明治 17 年 5 月 15 日盛岡市生○明治 36 年盛岡中卒○石川啄木と交流○盛岡高農林学科第一期卒業生○昭和 37 年 10 月 14 日没

【も】

● 毛藤 謹治

盛岡高等農林学校の後輩

● 森 佐一

明治 40 年 5 月 3 日生○森家は明治橋近くの盛岡市新穀町 14 番地で惣門森八百屋を営む○盛岡中学 4 年生「北小路幻」「北小路健」等の筆名で詩作○詩誌【貌】編集○東京外国語学校中退○昭和 3 年岩手日報社入社○森惣一または森荘巳池の筆名○昭和 14 年退社○昭和 14 年『店頭』で芥川賞候補○昭和 18 年『蛾と笹舟』で直木賞受賞○昭和 18 年『宮澤賢治』○十字屋版以降坂本全集に至るまで宮澤賢治全集の編集○昭和 21 年『宮澤賢治歌集』○昭和 24 年『宮澤賢治と三人の女性』○昭和 35 年「野の教師宮澤賢治」○昭和 47 年『土が産んだ宇宙思想』○昭和 49 年『宮澤賢治の肖像』○平成 6 年『私たちの詩人宮澤賢治』

1933.02.10/1933.03.30

【や】

● 八木 英三

花巻川口尋常高等小学校三年生と四年生担当○『まだ見ぬ親（五来素川翻案・原作マーロウ『家なき子』や『海に塩のあるわけ』（民話『海の水はなぜ辛い』）などを授業中に朗読○明治 40 年 2 月早稲田大学の編入試験に合格し花巻川口尋常高等小学校退職○【春と修羅】出版後の賢治の車中で再会し賢治は「思想の根底は全て先生の童話から貰ったように思って感謝しています」と述べた

● 八木 源次郎（源太郎）

明治 11 年 2 月 14 日生○政次郎の知人○牛乳販売業○賢治に結婚を勧める○昭和 9 年 1 月 8 日没

● 安原 清治

明治 24 年 9 月 10 日生○盛岡中自彊寮で賢治と同室○卒後郡役場勤務○昭和 5 年 4 月 8 日没

● 柳原 昌悦

明治 43 年 8 月 10 日生○大正 14 年花巻農学校入学 7 回生○昭和 4 年岩手師範学校入学○
卒後亀ヶ森・煙山・手白森小学校教員○賢治最後の手紙（昭和 8 年 9 月 11 日付）を受け
とる○昭和 15 年茨城県内原満蒙開拓訓練所入所○平成元年 2 月 12 日没
1933.09.11

【ゆ】

【よ】

● 吉田 一穂（本名由雄）

明治 31 年 8 月 15 日北海道上磯郡木古内町で生○早稲田大英文科中退○昭和 5 年『故園の
書』○昭和 15 年『海の聖母』○昭和 7 年詩誌【新詩論】を佐藤英一・大木惇夫・宍戸義一
・逸見櫛吉らと創刊○昭和 48 年 3 月 1 日没

● 吉田 豊治

明治 23 年 4 月 8 日生○明治 44 年盛岡中学卒○昭和 41 年 1 月 4 日没

● 吉田 八十八

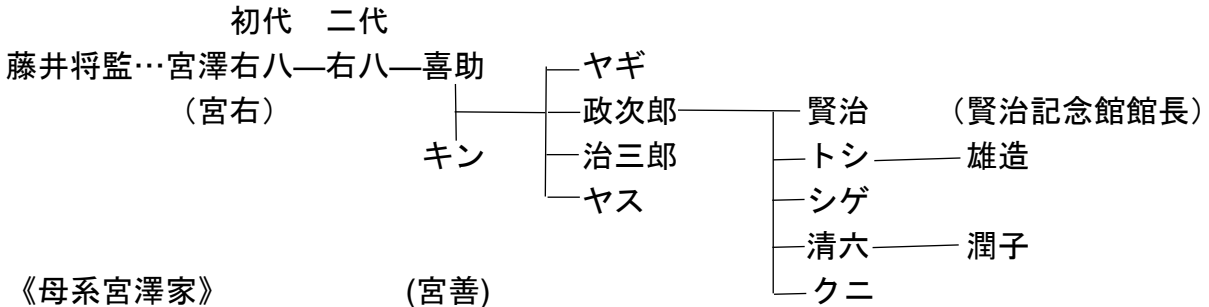
賢治の教え子○劇『植物医師』の農夫役

● 吉野 信夫（本名 吉野 徳）

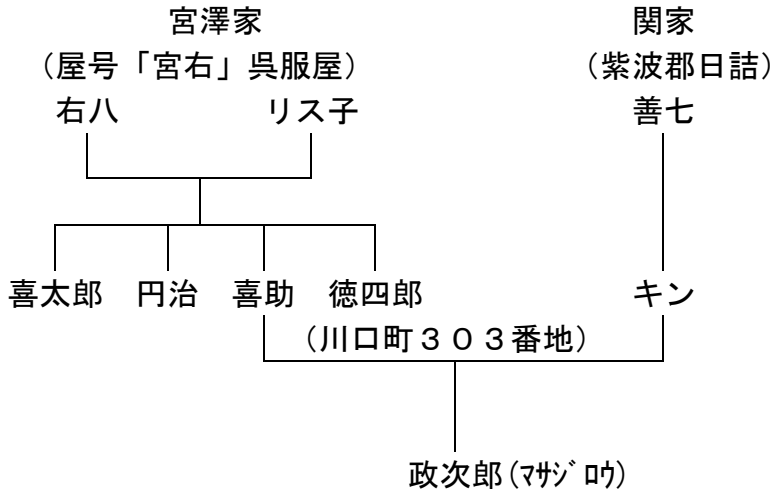
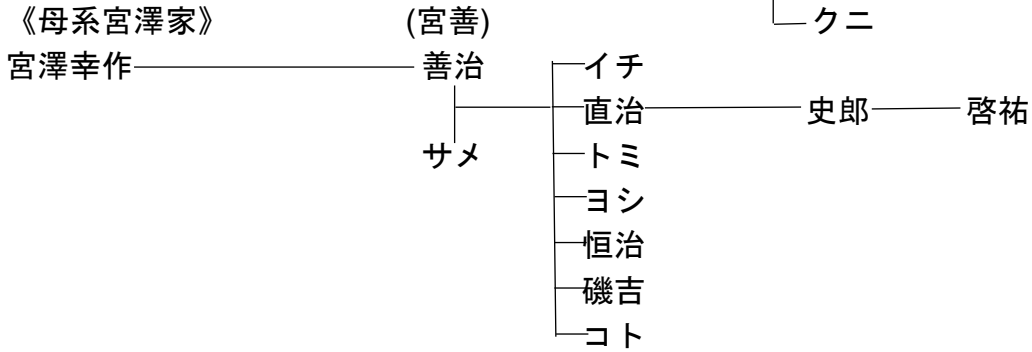
明治 41 年 12 月 24 日生○東洋大学支那哲学東洋文学科卒○昭和 6 年 5 月詩誌【詩人時代】
編集創刊○詩集【永遠の愛人】○昭和 11 年 7 月 11 日没
1933.01.16

宮澤家系図

《父系宮澤家》



《母系宮澤家》



* 花巻銀行専務取締役
花巻温泉役員
岩手軽便鉄道役員

